

なぜ320万もの命が奪われたのか



道ノ尾駅前
（昭和二〇年八月一〇日）
長崎市
山崎廣介氏撮影



負傷した戦友を背負った兵士
(昭和13年6月、徐州へ向かう津浦線沿い 金沢秀豊氏撮影)

原爆と戦争展

展示内容

- パネル「原爆と峰三吉の詩」
広島・長崎被爆写真、峰三吉の詩
「原子雲の下より」の子ども達の詩
- パネル「第二次世界大戦の真実」
- パネル「沖縄戦の真実」「都市空襲」
- 市民提供の資料、体験記など

《被爆体験を聞くコーナー(随時)》

6月25日(月)～29日(金)

午前10時～午後4時半(25日は12時から開会します)

広島大学中央図書館・地域交流プラザ

入場
無料

主催 原爆展を成功させる広島の会 ホームページ <http://ww41.tiki.ne.jp/~genhiro/>
連絡先 広島市東区若草町5-9 電話・FAX 082(263)0611(事務局)
会場 地域交流プラザ・フロア 電話 082(424)6214, 6207

第二次世界大戦の真実を語りつぐ

原爆と戦争の体験を若い世代に語り継ごう

戦後62年をへて、多くの人々が新たな戦争の危機や社会の荒廃に心を痛め、平和で豊かな日本を望んでいるなかで、体験にもとづいて原爆と戦争の真実をあきらかにし、若い世代に語り継ぐことが切実に求められています。

広島では、6年前から「原爆と峠三吉の詩」パネルによる原爆展が始まり、2001年11月に旧日本銀行広島支店で開催した原爆展には、4000人の市民が参加し大きな反響をえました。「原爆と峠三吉の詩」原爆展を成功させる広島の会は、この旧日銀原爆展を契機に結成され、その後も原爆展運動を中心に、被爆体験を若い世代に語り継ぐことを使命とする活動をすすめてきました。原爆展は、呉市や江田島市、廿日市市、広島市内の公民館や文化センター、集会所、大学、学校、平和公園などで継続して展示されて市民のなかに定着し、被爆市民がその体験を語る場となっています。

昨年のメルバルクでの第5回広島市民原爆展など、最近の原爆展では、「原爆と峠三吉の詩」パネルに加えて、沖縄戦の真実や都市空襲、戦地体験のパネルなどが新しく展示され、「日本の敗戦がはっきりした段階で、沖縄戦や空襲、原爆は必要なかった」、「再びあのような惨禍が繰り返されないように、今こそ若い世代に戦争の真実を伝えねばならない」という思いが共通して語られています。

今回の「原爆と戦争展」では、「原爆と峠三吉の詩」パネルに加えて、昭和大恐慌から満州事変、日中戦争から日米戦争へ、さらに戦後のアメリカによる占領にいたる第2次世界大戦の流れを体験者の証言とともに、写真や近年発見された資料を集めて新しく作製したパネルを展示します。このたびの「原爆と戦争展」が、戦争の体験と真実を若い世代に語りつぎ、戦争をおしとどめる平和の力を大きくすることに少しでも貢献できることを願うものです。会場では、隨時、広島の被爆者から被爆体験を直接聞くことができます。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

2007年6月

「原爆と峠三吉の詩」原爆展を成功させる広島の会